

7月29日 ルカによる福音書7章36～8章3節

【解説と黙想】

婦人の癒しと奉仕

・類似エピソードとの関係

ルカによる福音書の特色として当時弱い立場とされていた女性たちについて言及されている箇所の一つです。

女性がイエスさまに香油を注ぐ話は、他の福音書にもあります（ヨハネ12章他並行箇所）が、それらはいずれもベタニアでの出来事とされ、主題も異なっていますので、ルカだけが別の話と考えられます。

それらのいわゆる「ナルドの香油」物語の一つであるヨハネ福音書では、女性がベタニアのマリアであるとされています（ヨハネ12：3）。歴史上、ルカの香油物語とナルドの香油物語が混同され、さらにベタニアのマリアとマグダラのマリアが混同された結果、本物語の罪赦された女性がマグダラのマリアであると解釈されたことがあります。しかし7章の女性が誰であるか特定する情報はありません。8章の話との関係に注意が必要です。

・本エピソードの説明

当時の旅行者や説教者は、それぞれの町の有力者の家で世話を受けるのが通常でした。食事の席には不特定多数の人々が同席することが可能でした。また当時は今日のようなテーブルと椅子ではなく、敷物の上に足を横に投げ出して食事をしました。女性がイエスさまの背後から足もとに近づけたのはそのためです。

ファリサイ派シモンの批判は、当時の人々が、人の「汚れ」が食卓を共にすることによってうつると考えたことに基づきます。これは、聖書の律法の理解を拡大解釈したものです。

イエスさまの例えに出てくる通貨単位「デナリオン」は通常肉体労働者一日分の賃金とされます（マタイ20：2）。ここではその具体的な価値や十倍という比率ではなく、ただ金額の大小だけが着目されます。

・「神の愛」と「人の愛」の関係

47節は口語訳では「この女は多く愛したから、その罪はゆるされているのである」と女性の愛の行為が罪の赦しの動因であるかのように訳されます。新改訳聖書も同様です。用いられる接続詞「ホティ」は口語訳等のように「だから」とも、新共同訳のように「で分かる」とも訳せます。両方の意味を持つことから、「神の赦しの愛」と「人の愛の働き」が、（いずれの方向であっても）一方的な因果関係にある二種類の愛なのではなく、「神が私たちが赦して下さった愛を私たちが隣人愛として具体的に実現する」という一体的な愛であることがわかります。

・多様な愛の奉仕

8章の箇所は女性たちの奉仕について語ります。十二使徒は全員が男性ですが、イエスさまの宣教団には多くの女性がいたことが記されています。彼女たちは様々な形でイエスさまの宣教を支え、自分たち自身も宣教の働きに仕えていました。これは特別優れた能力や立場を持たない子どもたちでも、それぞれの賜物に応じて、神さまの愛を実現できることを教えています。

なお「婦人」という表現は近年避けられている表現であることに留意する必要があります。（長田詠喜）

《参照箇所》 レビ記5：3、ヨハネの手紙一3：16～18
《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」 問61

7月29日 ルカによる福音書7章36節～8章3節

【説教展開例】

婦人の癒しと奉仕

◇……………単元のねらい……………◇

私たちの教会生活や日常生活で、隣人のために奉仕すること、神さまに仕えることが強制や義務ではなく、神さまへの感謝の応答であることを確認する。また、私たちの日常が神さまの恵みによって支えられていることを改めて確かめ、感謝を新たにする。さらに、私たちが自分の持っている賜物をもってそれぞれ神さまに仕えることができること、特に祈りをもって神さまに仕えられることを確かめる。

「いつも感謝する」

イエスさまの周りにはいつもたくさんの方がいました。有名なのは、十二人のお弟子さんたちです。皆さん名前を知っていますか？ ペトロさん、ヨハネさん、ヤコブさん……。でもその他にもたくさんの方がいました。男の人だけではなく。女の人たちもいました。今日の最後のところに幾人か名前が出ていますね。「マグダラのマリア」「ヘロデの家令クザの妻ヨハナ」「スサンナ」その他にもたくさんの方の女の方がいたことが書いてあります。

イエスさまたちはイエスさまと十二人の弟子たち、他にも男の人や女の人たちがいましたから、全部で二十人とか三十人のグループでした。その人たちみんなでいろいろな町に行って、そこでイエスさまがお話をなさり、病気の人を治してあげたりしていました。弟子たちはイエスさまのお話のお手伝いをしたり、イエスさまからいろいろなことを教えていただいたりしていました。今日読んだお話では、イエスさまたちは「ファリサイ派のシモン」という人の家でシモンたちと一緒に食事をしています。でもいつでもどこかのお宅にお邪魔して一緒に食事をするというわけにはいかないでしょう。食事以外にも着るものや生活のために必要なものもたくさんあるでしょう。イエスさまたちはみんなでお金や持ち物を出し合って、一緒に生活をしていました。女の人たちもイエスさまをはじめとするみんなのお世話をしたりして、奉仕をしてい

ました。他の弟子たちと一緒にイエスさまのお話を聞くこともあったはずですし、もしかすると、女の弟子たちも男の弟子たちのように、他の人にイエスさまのお話をしたことがあったかもしれません。みんな出来る限りの事をして、イエスさまのため、仲間のため、お話を聞きに来た人たちのために奉仕をしていました。

皆さんも、教会で礼拝の時にお祈りをしたり、お手伝いをする人がいるかもしれません。教会でなくても、友たちや家族、周りの人のお手伝いをしたり、親切にすることもあるでしょう。でもなんでそんなふうにするのでしょうか？先生やお母さんに言われたから、良いことをすると褒められるからするのでしょうか？あとでお礼をしてもらえからするのでしょうか？

今日の話に出てくるファリサイ派のシモンは、もしかすると、イエスさまに親切に食事をお出しすることで、自分が良い人だと思われるのが嬉しかったのかもしれませんが。イエスさまの仲間は何十人もいましたから、そんな人たちにいつべんに食事を出せるのはお金持ちであることの証明になるでしょう。そんな自慢をしたかったのかもしれませんが。

ところがその食事の席に一人の女の方がやってきてイエスさまの足を涙で濡らし、持ってきた良い香りの油をイエスさまの足に塗りました。でもその女の方は「罪深い

女」の人でした。悪いことをしてみんなから嫌われていた女の人でした。シモンは「イエスさまが本当にすごい神さまの使いならば、この女がどんな人かわかって追払う筈なのに……」と思いました。

イエスさまはそんなシモンの心の中をすっかりわかっていました。そこで、シモンに一つのお話をしました。二人の人がお金を借りていました。一人はたくさん、もう一人はもっともってたくさんのお金を借りていました。ところが、二人ともお金を返せなくなってしまいました。お金を貸していた金貸しは優しい人でしたので、二人の借金をなかったこととしてあげました。たくさん許してもらった人と、もっともってたくさん許してもらった人と、どちらがたくさん感謝するでしょう。こんな話でした。シモンは「簡単ですイエスさま。もっともってたくさん許してもらった人の方がたくさん感謝します」と答えました。皆さんもそう思いますか？

そこでイエスさまはおっしゃいました。「この(女の)人が、多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大ききで分かる」私たちは、たくさん愛していただいたり、たくさん親切にいただいたり、たくさん大切にいただいたり、すればするほど、自分も親切にしたり、人を大事にしたり、愛したりできるようになるのです。

イエスさまの周りにはそんな人たちがたくさんいました。十二人の弟子たちも皆、イエスさまに愛されておりましたし、最初に名前を出しました、マリアさんやヨハナさんやササナさん、それぞれみんなイエスさまに救っていただいた人たちでした。女の人だけではありません。十二人の弟子たちもその他の弟子たちも、イエスさまの周りにいる人たちはみんなイエスさまに愛されて、助けていただいて、救っていただいた人たちばかりでした。イエスさまからたくさんたくさん愛していただいたから、その愛を本当に喜んでるから、イエスさま

と一緒にいてイエスさまをお手伝いして、イエスさまのことを周りの人に伝えることができたのです。

皆さんも、イエスさまにたくさん愛していただいています。私たちのためにイエスさまは人間として生まれて下さいました。十字架について私たちの罪を赦して下さいました。今も天におられて私たちのことを見守っておられ、私たちのお祈りを聞いてくださいます。私たちが今こうして暮らしていて、毎日学校に行ったり、毎週教会に来たり、こうやって礼拝をしたりすることができるのも、友たちと遊んだり、美味しいご飯を食べたりできるのも、みんなイエスさまのおかげです。そのことを感謝するから、うれしく思うから、私たちがイエスさまを愛して、イエスさまをお手伝いすることができるのです。

私たちが今こうして元気でいるのも、礼拝に来れたのも、みんな仲良く過ごせるのも、みんな神さまのおかげだというと、じゃあ、イエスさまに感謝して、ありがとうと言おう、感謝の気持ちを表そうかなという感じになってきます。でも、今度心配なのは、イエスさまに感謝しようと思っても、どうすれば良いのかわからないということだと思います。でもこれも心配いりません。イエスさまの周りにいた人たちはそれぞれ自分のできることでイエスさまをお手伝いしました。お話する人もおり、お手伝いする人もおり、さっきの話のように、自分の持っている香油をイエスさまに塗って差し上げる人もいました。私たちは自分のできることでイエスさまに感謝を表せば良いのです。一番最初にはまず、感謝の言葉を言うことです。「神さまいつも私たちを支えてくださってありがとうございます」とお祈りする、それは私たちが誰でもできる神さまへの感謝の表れです。感謝を確かめて、感謝を表して毎日を過ごしていきましょう。(長田詠喜)

《今週の暗唱聖句》

イエスは、わたしたちのために、命を捨てて下さいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。(ヨハネの手紙一3章16節)

7月29日

【幼稚科】

婦人の癒しと奉仕

みなさんはお友達をはじめ他の人に親切にしたりお手伝いをしたりすることがあります。「する」と答えた人は、どうしてそうしようと決めたのですか。親や先生からやれと言われるからですか。人を助けると周りの人からほめてもらえるからですか。周りからほめられるのがうれしくてやる、という人は結構いるんじゃないかな、と先生は思います。

シモンという人が、旅をして歩いていてイエス様に「ご一緒に食事をしましょう」と声をかけ、イエスさまを自分の家に迎え入れました。そこに女の人が入ってきます。この人は周りから「罪深い女」とみられていました。この人はイエスさまのもとに来ると、泣きながらイエスさまの足を涙でぬらし、歩いて汚れていた足をきれいにしました。さらによい香りのする油をイエスさまの足にぬったのです。シモンは心の中で、「イエスさまはただの人ではないと思っていただけれど、この女の人が罪深い人だとわからないなんて。」と思いました。イエスさまを迎え入れた時とはシモンの様子は変わってしまいました。シモンの親切は、人目につくところだけの、長続きしないものだったのです。

イエスさまはシモンにこんなお話をされました。「二人の人が金貸しからお金を借りていました。そのうちの一人はもう一人より10倍おおく借りていました。二人とも借りた金が返せなくなったのを知った金貸しは、

どちらの借金もなしにしてあげました。二人のうち、どちらがいつそう金貸しに感謝するでしょうか。」シモンは「なくなった借金の多い方だと思います」と答えました。

イエスさまは女の人を見ながらシモンに言いました。「この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大ききでわかります。」この女の人は、どうすると人からほめてもらえるかを求めて動くことはできなかったかもしれません。それもあって人に迷惑をかけ悲しませる罪が多く、「罪深い女」とみられてしまったのでしょうか。でもイエスさまはこの人をいやがらず、受け入れてくださいました。そこから女の人に、罪赦された喜び、心からの感謝が沸いてきて、自分なりに精いっぱい行動によって感謝を表したのです。

この女の人のように罪を赦される、病気を治してもらうなどしてイエスさまに心から感謝した人たちが、男の人も女の人も集まってイエスさまと一緒に旅をしました。特に女の人は自分の持ち物をイエスさまやみんなのために差し出すまでして精いっぱい奉仕しました。

わたしたちもイエスさまに罪を赦していただき、天の父なる神様の子どもとして受け入れていただいています。神様、イエスさまへの感謝をもって生きていくところから、それぞれのやり方で本当の親切を表せるようになり、神様に喜んでいただけるのです。

7月29日

【小学科上級・中学科】

婦人の癒しと奉仕

1. ルカによる福音書7章36～50節を読みましょう

- ①罪深い女はどんな行動をしましたか。

- ②この女はなぜ泣いたと思いますか。

- ③多くの罪を赦されたことは、なにを見るとわかりますか。

- ④金貸しと二人の人の話を読んで、神様と自分の関係を考えてみましょう。

2. ルカによる福音書8章1～3節を読みましょう

- ⑤イエスさまの旅に従ったのは誰ですか。

- ⑥婦人たちはどのような方法で、イエスさまに従いましたか。

- ⑦婦人たちは、なぜイエスさまに従ったと思いますか。

- ⑧あなたはどのような方法で、イエスさまに従いますか。